

令和 7 年度第 1 回碧南市文化財保護審議会次第

日 時 令和 7 年 6 月 3 日（火）午後 1 時 3 0 分から

場 所 碧南市藤井達吉現代美術館 地下 1 階 多目的室 B

1 あいさつ

2 委員の委嘱について

3 委員及び事務局職員の紹介

4 副会長の指名について

5 議題

協議事項

(1) 令和 7 年度事業計画（案）について（資料 1）

(2) 令和 7 年度文化財展について（資料 2）

6 その他連絡事項

令和 7 年度 碧南市文化財保護審議会委員名簿

(敬称略)

職 名	氏名
会 長	北村 恒
委 員	曲田 浩和
委 員	岩田 敏也
委 員	石川 博章
委 員	野村 清尚
委 員	兵藤 俊宏
委 員	磯貝 国雄

※任期 2 年（令和 6 年 4 月 1 日～令和 8 年 3 月 3 1 日）

事務局名簿（教育部文化財課文化財係）

職 名	氏名
教育長	小澤 徹
部 長	岡本 和雄
課 長 (美術館副館長)	山田 光則
課長補佐 (美術館副館長)	木村 理恵子
係 長	豆田 誠路
学芸員	都築 茉莉
市史資料調査員 (会計年度任用職員)	北村 恒
市史資料調査員 (会計年度任用職員)	伊豫田 祥子
市史資料調査員 (会計年度任用職員)	原田 朋浩
学芸員 (会計年度任用職員)	築山 拓磨

事務局 住所：〒447-0847 碧南市音羽町 1 丁目 1 番地 碧南市藤井達吉現代美術館
TEL：0 5 6 6－4 8－6 6 0 2
FAX：0 5 6 6－4 8－6 6 0 3

市史資料調査室
住所：〒447-0872 碧南市源氏神明町 2 番地 碧南市民図書館中部分館 2 階
TEL：0 5 6 6－4 1－4 5 6 6
FAX：0 5 6 6－4 1－1 9 8 4

令和 7 年度事業計画（案）

1 文化財保護審議会開催事業

文化財の保護・活用に関する重要な事項を、調査・審議をする。

- (1) 定例会（3 回：① 6 月 3 日（火）、② 10 月頃、③ 3 月頃）
- (2) 臨時会
- (3) 委員視察研修（11 月頃）

2 市史資料調査事業

市史資料等の収集・整理、調査などを行う。

- (1) 市史料第 75 集発行

- ア 内容 西三河地方における糸車の重し 押え瓦
- イ 編著 石川博章氏（市文化財保護審議会委員）

- (2) 市史料別巻 14 発行

- ア 内容 油ヶ淵治水を巡る周辺村々の対立と協力
- イ 著者 伊豫田祥子氏（市史資料調査員）

- (3) 市史資料収蔵品展の開催

- ア テーマ 戦争と碧南 ～子どもたち（未来）へ伝えたいこと～
- イ 会 期 令和 7 年 8 月 5 日（火）～8 月 31 日（日） 月曜日休館
- ウ 会 場 文化会館 1 階 展示室 1・2
- エ 主 催 市教育委員会
- オ 共 催 市遺族連合会・市福祉課
- カ 付 記 小 6 から高校生までが理解できる程度の展示にする。

- (4) 古文書^{こもんじょ}入門講座

- ア 開催日 令和 7 年 9 月頃（全 5 回程度）
- イ 内 容 江戸時代の^{はんぽん}版本や古文書などを解説する。
- ウ 会 場 藤井達吉現代美術館 地下 1 階 多目的室 B

- (5) 広報へきなん（偶数月号）に「碧南の歴史へのいざない」を連載

- ア 内容 今年度は「庁舎タイムスリップ」と題して、碧南の歴史を伝える。

3 文化財調査事業

市内に保存・伝承されている文化財を調査・研究し、必要に応じて指定を行う。また文化財展等を通じて、広く市民に文化財に対する理解と関心を高めるよう努める。

(1) 文化財の調査・研究

ア 歴史的建造物調査

(ア) 実施時期・場所 9月頃／検討中

(イ) 内容 実測、写真撮影、調書作成等

(2) 市指定文化財の新指定 随時

(3) 文化財の保護に対する啓発事業

ア 文化財展の開催

(ア) テーマ 「碧南国民学校から100年展（仮称）」

(イ) 会 期 令和8年2月7日（土）～3月5日（木） 月曜日休館

（但し、2月23日（月・祝）は開館し、翌日休館）

(ウ) 会 場 文化会館 1階 展示室1

(エ) 内 容 碧南地域における中等教育の発展を軸に、四カ町村の実業補習学校での教育内容、碧南国民学校の創設に至るいきさつや学校創設の目的、実業補習学校や碧南国民での教育内容、碧南高校の歴史について掘り下げる。

イ 文化財防火デー行事の実施

(ア) 実 施 日 令和8年1月下旬

(イ) 実施内容 防火点検 防火設備の点検及び文化財管理状況の確認
消火訓練 碧南消防署員及び関係者の協力のもとに実施

(ウ) 実施場所 旭地区（調整中）

4 指定文化財への補助事業

碧南市文化財保存事業補助金交付規程及び碧南市伝統文化保存継承事業補助金交付規程に基づき、指定文化財の保存を支援する。

(1) 市文化財保存事業補助金

補助対象事業	予算措置額
称名寺所蔵県指定文化財の管理（文化財収蔵庫警報設備維持）	178,200円
「霞浦神社のケヤキ」の保存（維持）	122,000円
絹本著色釈迦三尊像（国指定重要文化財）の修理	360,000円
貞照院経蔵の修理	10,000,000円

(2) 市伝統文化保存継承事業補助金

補助対象事業	予算措置額
チャラボコ保存継承事業（碧南チャラボコ連合保存会）	200,000円
山車からくり囃子三番そう保存継承事業（大浜中区山車保存会）	90,000円
囃子三番そう保存継承事業（鶴ヶ崎区山車保存会）	90,000円

(3) 付記

ア 絹本著色釈迦三尊像（国指定重要文化財）の修理

- (ア) 修理期間 令和7年4月1日～令和9年3月31日（2か年）
- (イ) 修理場所 京都国立博物館 文化財保存修理所（京都市東山区）
- (ウ) 修理事業者 株式会社光影堂（京都市下京区）
- (エ) 修理説明書 別紙のとおり
- (オ) 付記 国庫補助、県市随伴補助のほか、「紡ぐプロジェクト」文化財維持・修理助成事業助成あり。

イ 貞照院経蔵（市指定有形文化財建造物）の修理

- (ア) 修理期間 令和7年4月1日～8月31日
- (イ) 修理事業者 有限会社橋本淳総合建築（岐阜県羽島市）
- (エ) 修理内容 市指定文化財建造物経蔵保存修理
- (オ) 目的 経蔵内の回転式書架（輪蔵）が回転しなくなり、さらに昨年1月の地震の影響で梁桁が折れ輪蔵にのしかかる状態で仮補強の状態である。そのため、当初の状態に復するよう経蔵を保存修理する。

5 施設維持管理事業

大浜陣屋広場、旧大浜警察署の維持・管理を行う。

6 歴史系企画展開催事業

- (1) 名称 永井直勝没後400年 ^{おさだ}長田・永井一族
- (2) 会期 令和7年5月24日（土）～7月6日（日） 午前10時～午後5時
- (3) 会場 藤井達吉現代美術館 2階 展示室
- (4) 主催 藤井達吉現代美術館・市・市教育委員会
- (5) 協力 文化財保護審議会
- (6) 観覧料 一般500円 高大生400円 中学生以下無料
- (7) 内容 碧南出身の戦国武将・大名である永井直勝（1563－1625）の没後4

00年を記念し、直勝を生んだ三河大浜（現碧南市）の長田家の足跡と、直勝以降江戸幕府を支えた永井家の一族の活躍を紹介する。

令和 7 年度碧南市文化財展「碧南国民学校から 100 年展（仮称）」 企画概要書

1 開催趣旨

碧南高等学校（以下、碧南高校）は、大正 15 年（1926）4 月 1 日に「愛知県碧南国民学校」として創設されました。設置者・学習課程・科や校名の変更を経て、令和 8 年（2026）で 100 年を迎えます。

碧南高校が誕生した大正末期は、明治期からの近代教育制度が体系化され、より高度な教育への関心が高まっていく時代でした。そうした中で、新川町・大浜町・棚尾町・旭村の四ヶ町村が学校組合を立ち上げ、組合立の学校として、愛知県碧南国民学校は誕生しました。

本展では、碧南地域における中等教育の発展を軸に、四ヶ町村の実業補習学校での教育内容、碧南国民学校の創設に至るいきさつや目的、実業補習学校や碧南国民学校での教育内容、碧南高校の歴史について掘り下げていきます。

2 開催期間等

開催期間：令和 8 年 2 月 7 日（土）～3 月 5 日（木）

月曜休館（但し、2 月 23 日（月・祝）は開館し、翌日休館）

午前 9 時～午後 9 時

開催場所：碧南市文化会館 1 階展示室 1（予定）

観覧料：無料

3 展示想定品

(1) 行政文書（新川町立農商補習学校、棚尾町立農商補習学校など）

(2) 校友会誌

ア 碧南国民学校：『碧南』

イ 碧南商業学校：『校友会誌』・『碧商新聞』

ウ 碧南商工高校：『紺碧』・『濤音』・『潮』

エ 碧南高校：『碧窓』・『碧高新聞』・『虫』・『年輪』・『碧定新聞』（市民図書館が『碧窓』：創刊・3・6・8・9・14～16 号、『啓道』：1～5・7・8・13 号を所蔵）

(3) その他（学校要覧、敷地図面、校旗、絵葉書、卒業アルバム）の

現物展示と内容のパネル展示

(4) 碧南国民学校～碧南高校の写真（門柱・武道場・校舎・学校設備・教育内容・授業風景・教職員や生徒の活動等）

(現在の展示イメージ)

第 1 章 戦前の中等教育について

展示想定：中等教育の概略、碧南国民学校創立時（大正～昭和初頭）と現代の教育制度を比較

戦前の中等教育に含まれる学校（旧制中学校・高等小学校・高等女学校・実業学校・師範学校・高等師範学校）の概略

展示予定品：刈谷中学校・安城高等女学校・農蚕学校（沿革の概略を示したパネル）

目的：画一的な教育制度ではなく、複線的な教育制度だったことを認識してもらう。

第 2 章 碧南の義務教育以後の教育

展示想定：大浜町立農商補習学校・新川町立農商補習学校・棚尾村立農商補習学校・旭村立鷺塚農業補習学校・旭村立日進農業補習学校について

（収蔵資料の多い棚尾町と新川町を具体例として挙げる。その他の町村については補足的に説明する。）

展示予定品：「棚尾村実業補習学校綴」・「新川町農商業補習学校修了証」・「学生証」

目的：尋常小学校卒業後の教育意識の高まりと、それに対応した各町村の動きを解説。

第 3 章 大浜町外三ヶ町村学校組合の設立と開校準備

展示想定：第 2 章から更に発展した中等教育機関を求める声と単一町村ではなく、組合を設立させた意味の考察

展示予定品：「令達広告綴」・「学校組合日誌」・「県立促進委員会日誌」

目的：創設の目的や経緯、藤井達吉の窯業科設置について解説。

第 4 章 碧南国民学校での学習内容

展示想定：地域の中心人物を育成していくための教育活動について写真と資料を解説

展示予定品：「農業科概観」・「商事要項」・「各教科授業」・『碧南』・『大正わらべ唄』（加藤良平著）

目的：実業学校での教育内容について解説。

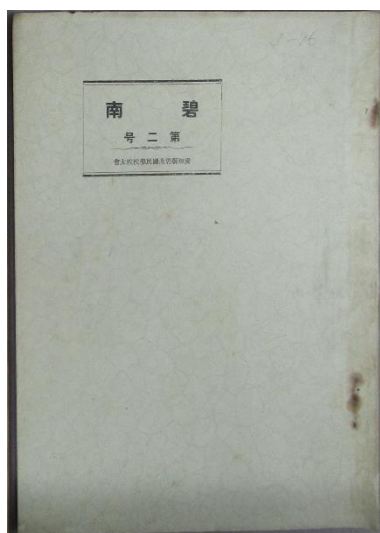
第 5 章 碧南国民学校から碧南高校まで

展示想定：碧南国民学校～碧南高校を年表形式で解説

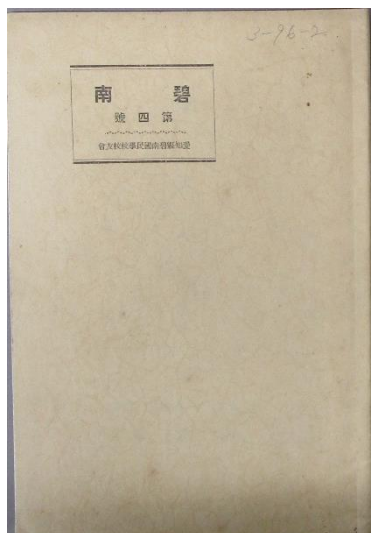
展示予定品：「碧南国民学校ヲ縣立実業学校ニ変更スル陳情書」・『碧窓』（市民図書館蔵）・写真（現代のものまで取り扱うか検討中）

その他の構想

人物に焦点を当てる（碧高出身の政治家や実業家など）、ある学生の日、戦争と碧高、
地域とのつながり



『碧南』2号（昭和6年）



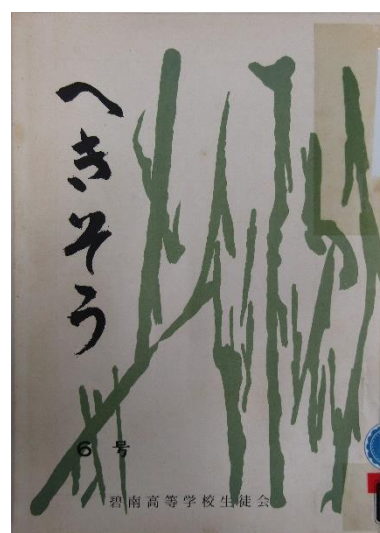
『碧南』4号（昭和8年）



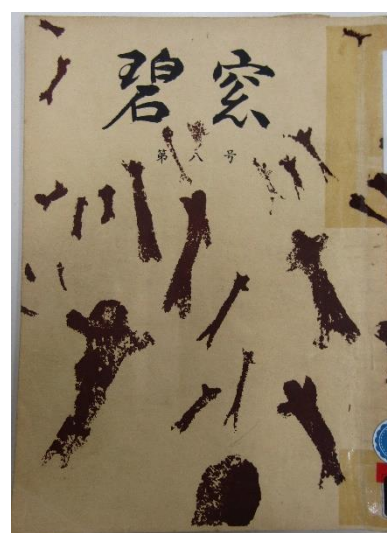
『碧窓』創刊号（昭和30年）



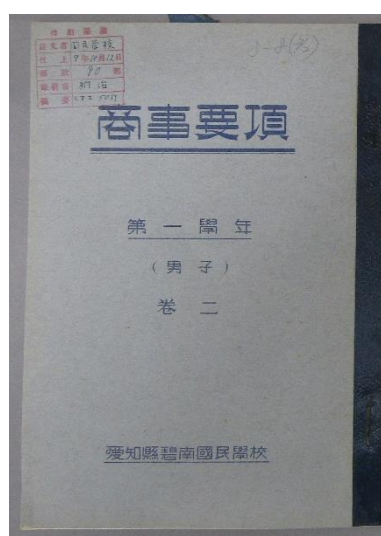
『碧窓』3号（昭和31年）



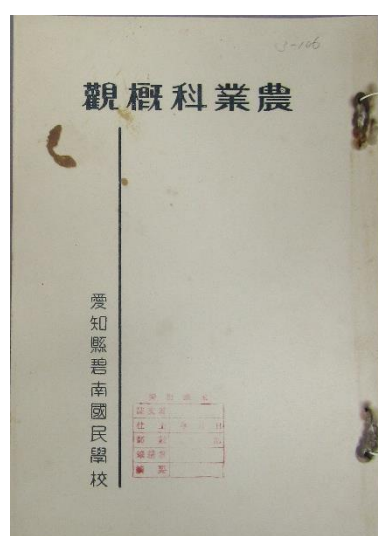
『碧窓』6号（昭和33年）



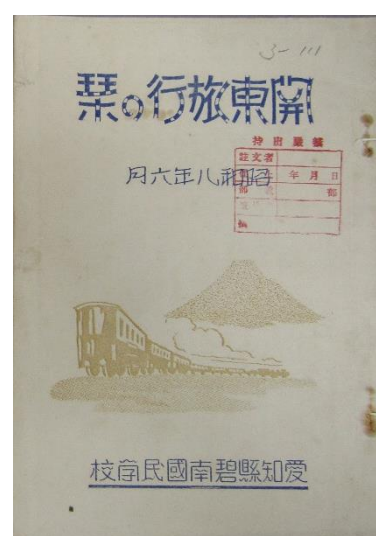
『碧窓』8号（昭和35年）



『商事要項』（昭和9年頃）



『農業科概観』（昭和9年）



『関東旅行の葉』（昭和8年）